

文化遺産総合活用推進事業 実施計画

1 都道府県・市区町村名	千葉県佐倉市	2 補助事業の種類	地域文化遺産活性化
3 実施計画の名称	日本遺産活用推進事業		【計画の改善時期】 平成 30 年度
4 実施計画期間	平成 29 年度 ～ 平成 33 年度		
5 実施計画の概要			
【計画の概要】 千葉県内では唯一、日本城郭協会の「日本100名城」の一つに選定されている「佐倉城」は、土井利勝が慶長15年（1610）に佐倉の領主となった翌年から、約7年間の歳月をかけて築きあげたと言われている。城下町佐倉の基礎はこの時につくられ、江戸時代を通じて11名もの老中が配された幕府の要衝として栄え政治・軍事の面で江戸を支えた。さらに、幕末期の藩主堀田正睦によって蘭学が推奨され、蘭医佐藤泰然によって蘭医学塾兼診療所「順天堂」が開設されるなど、蘭学の先進地として発展を遂げた地でもある。明治時代には、陸軍歩兵第2連隊、第57連隊がおかれ軍都として発展し、戦後はベッドタウンの消費地として成長し、伝統と文化を築き上げてきた。 佐倉市は、市総合計画の将来都市像「歴史 自然 文化のまち～「佐倉」への思いをかたち～」を実現するための取り組みである「佐倉市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を平成27年に策定した。その基本目標の一つに「佐倉の魅力を発信し、新しい「ひと」の流れをつくります」があり、歴史・自然・文化といった市の資源を十分に活用したシティプロモーションを推進し、交流人口の増加とともに、定住人口の維持・増加につなげていく。 その中で、平成28年4月、佐倉市を含む「北総四都市江戸紀行・江戸を感じる北総の町並み」が「日本遺産」に認定された。佐倉市は、城下町としてストーリーを構成する四都市の一つに数えられている。佐倉・城下町400年記念事業の成果の一つであり、今後はこの事業で行ってきた地域活性化事業を継承する「日本遺産」を活かした地域活性化事業を展開している必要がある。 日本遺産に認定された北総四市の総合的な取り組みは、日本遺産北総四都市江戸紀行活用協議会が実施する事業となる。しかし、さらに日本遺産のブランド力を高め、城下町佐倉の歴史・文化資産を活用することで地域を活性化すると同時に、城下町佐倉をより深く知り愛着を持つ人の増加を図るためには、佐倉市独自の取り組みを積極的に実施・発信していかなければならない。この目的を達成するため、佐倉市では佐倉・城下町400年記念事業を発展的に継承する日本遺産活用推進事業を策定・計画し実施していく。 主な内容としては、 ①城下町佐倉の祭礼文化遺産を活かした地域活性化事業 ②武家文化を体験する甲冑・時代衣装の試着イベントの充実 ③城下町佐倉の歴史・文化を紹介する総合展示、資料調査、関連書籍の発行 ④国登録有形文化財「旧武居家住宅」（武家屋敷）の宿泊体験型改修の準備・実施 ⑤「城下町佐倉」のイメージ向上のためのプロモーション などを計画・実施している。			
6 実施体制			
本実施計画に係る全体の企画調整、補助事業に係る指導等は、下記の担当課が行う。 ・ 佐倉市教育委員会文化課 各種補助事業に係る文化財の取り扱いに関する指導・調整 「5 実施計画の概要」における②③④の事業を実施 「5 実施計画の概要」における①の補助事業への協力、指導 ・ 佐倉市産業振興課 観光振興に係るイベントの企画、実施、連携 「5 実施計画の概要」における②の事業を実施 ・ 佐倉市地域創生課シティプロモーション担当 市のイメージ向上、魅力発信のためのシティプロモーション 「5 実施計画の概要」における⑤の事業を実施 また、補助事業は次の団体が実施する。 ・ 佐倉山車人形保存会 「5 実施計画の概要」における①の事業を実施 構成団体（横町、上町、二番町、仲町、肴町、間之町、弥勒町の町内会長、祭礼委員長） ※また、事業の実施・協力については、次の担当課、団体が行う ・ 佐倉時代まつり実行委員会 「5 実施計画の概要」における②の事業を実施 構成団体（佐倉市産業振興課、佐倉商工会議所、佐倉市観光協会） ・ 佐倉市行政管理課市史編さん担当 「5 実施計画の概要」における③の事業への協力			

7 実施計画における目標と期待される効果		別紙①のとおり	
8 補助事業の概要	(1) 補助金額	～平成29年度交付決定額： 7,974 千円	平成30年度申請額： 千円
(2) 実施事業の概要		別紙②のとおり	
9 その他計画実施により想定される効果（定性的な効果を記載）			
【対市民】 ・市民の郷土への愛着や市民のアイデンティティを確かにし、佐倉の文化を根付かせる。 ・歴史・文化資産が集中する佐倉地区だけでなく、市内全域で「歴史のまち」のイメージの定着。 ・旧城下町商店街の統一イメージづくりへの協力→観光化→商業活性化→顧客の獲得→さらなる観光化、行政・民間事業者の相乗効果による地域の観光・経済活性化。 【対市外】 ・佐倉を訪れたい、住みたい、住んでいてよかったと感じる機運の醸成 ・都心から電車で1時間以内の日帰り観光地として、新たな観光ルートの提案。 ・自治体ツイッターやイメージキャラクターの広報等、新たなメディアの活用による低コストでの認知度向上。			
10 その他事業（自主財源、民間団体、他省庁等からの補助（支援）を予定している事業など）			
事業概要：			
事業概要：			
事業概要：			
11 「歴史文化基本構想」の策定や「歴史的風致維持向上計画」の作成・認定に向けた計画の見込等			
事業の実施により、自治体と地域がより密接にかかわっていく中で、文化財の保存・活用を振興していく意識・意欲を向上させていく。これまで、歴史的建造物の悉皆調査、市内の神社仏閣建造物の調査、市内遺跡分布地の調査などを行ってきた。これを踏まえ、歴史文化基本構想の策定を視野に入れながら、再調査が必要となっている各町の祭礼用具の悉皆調査、調査が行われていない市内の神社仏閣の宝物類の調査を行い、市内の文化財の状況を広く把握していく。			
12 担当部局			
地方公共団体 担当部局課	佐倉市教育委員会文化課文化財班		

7 実施計画における目標と期待される効果 別紙

目標区分 1：	地域の文化資源を活用した集客・交流					
評価指標区分 1：	地域の文化遺産への来場者数（具体的な指標は次のとおり）					
具体的な指標 1：	武家屋敷、旧堀田邸、順天堂記念館への入館者数			関連事業：	事業①③	
目標値 1：	【現状値】 平成 28 年度 48,000 人 ⇒ 【目標値】 平成 33 年度 70,000 人					
設定根拠 1：	過去3年間の入館者数の伸び率平均6%を参考として、毎年伸び率9%～10%を設定。					
進捗状況 1：	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	
44,000 人	人	人	人	人	人	
-18%						
目標区分 2：	地域の文化資源を活用した集客・交流					
評価指標区分 2：	地域の祭礼行事等への入込客数（具体的な指標は次のとおり）					
具体的な指標 2：	佐倉の秋祭りへの来場者数			関連事業：	事業①②③	
目標値 2：	【現状値】 平成 28 年度 260,000 人 ⇒ 【目標値】 平成 33 年度 300,000 人					
設定根拠 2：	平成28年度の入場者数を起点に、各年度8000人ずつ、最終的に30万人の入場者数を目標とする。					
進捗状況 2：	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	
190,000 人	人	人	人	人	人	
-175%						
目標区分 3：	地域の文化資源を活用した集客・交流					
評価指標区分 3：	地域に誇りを感じる住民の割合（具体的な指標は次のとおり）					
具体的な指標 3：	日本遺産「北総四都市江戸紀行」の認知度（市民）			関連事業：	事業③④	
目標値 3：	【現状値】 平成 28 年度 30 % ⇒ 【目標値】 平成 33 年度 80 %					
設定根拠 3：	平成28年度集計結果を起点に、各年度10%ずつ、最終的に80%以上の認知度を目標とする。					
進捗状況 3：	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	
47 %	%	%	%	%	%	
34%						
目標区分 4：	伝統文化の継承体制の維持・確立					
評価指標区分 4：	祭礼行事等の保存会会員数、保存団体数（具体的な指標は次のとおり）					
具体的な指標 4：	山車、御神酒所の引き廻し、お囃子演奏への参加増加数			関連事業：	事業②④⑤	
目標値 4：	【現状値】 平成 28 年度 250 人 ⇒ 【目標値】 平成 33 年度 330 人					
設定根拠 4：	平成28年度の参加者数を起点として、持続的な数字を維持していく。					
進捗状況 4：	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	
270 人	人	人	人	人	人	
25%						

様式 1－1 別紙②

8 (2) 実施事業の概要 別紙

事業①：	城下町佐倉の山車人形展示事業	実施団体：	佐倉山車人形保存会		
事業区分：	普及啓発	事業期間：	平成 30 年度 ～ 平成 33 年度		
事業概要：	山車人形、関連資料、パネル資料等の展示により、その特徴や城下町佐倉の祭礼の特色などを知ってもらい、祭りが行われる佐倉地区外の市内地区からの「佐倉の秋祭り」への参加人数を増やす活動を実施する。				
評価指標区分：	・保存会への新規入会者数	(具体的な指標は次のとおり)			
具体的な指標：	構成団体の新規入会者数				
目標値：	【現状値】 平成 29 年度 0 人 ⇒ 【目標値】 平成 33 年度 100 人				
進捗状況：	各年度、状況値、目標に対する達成率				
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度
20 人	人	人	人	人	人
20%					
事業②：	城下町佐倉のお囃子発表会事業	実施団体：	佐倉山車人形保存会		
事業区分：	普及啓発	事業期間：	平成 29 年度 ～ 平成 33 年度		
事業概要：	「佐倉“江戸”時代まつり」に合わせてお囃子発表会を開催する。佐倉囃子の普及啓発を図るとともに、各囃子連の発表の機会と技術の向上、入会者数の増加を図る。				
評価指標区分：	・フェスティバル出演団体の保存会会員数	(具体的な指標は次のとおり)			
具体的な指標：	各囃子連の会員数				
目標値：	【現状値】 平成 28 年度 80 人 ⇒ 【目標値】 平成 33 年度 150 人				
進捗状況：	各年度、状況値、目標に対する達成率				
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度
92 人	人	人	人	人	人
17%					
事業③：	城下町佐倉の祭礼シンポジウム事業	実施団体：	佐倉山車人形保存会		
事業区分：	普及啓発	事業期間：	平成 29 年度 ～ 平成 33 年度		
事業概要：	佐倉の祭礼文化を民俗、美術、都市計画、産業振興など様々な議論するシンポジウムを行い、その成果等をSNS上で公開していく。他イベントと関連して行い相乗効果を狙う。				
評価指標区分：	・その他	(具体的な指標は次のとおり)			
具体的な指標：	Facebookページ記事の「いいね」の数				
目標値：	【現状値】 平成 28 年度 0 件 ⇒ 【目標値】 平成 33 年度 500 件				
進捗状況：	各年度、状況値、目標に対する達成率				
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度
64 件	件	件	件	件	件
13%					

事業④：		山車公開組立事業		実施団体：		佐倉山車人形保存会	
事業区分：		後継者養成		事業期間：		平成 29 年度 ～ 平成 31 年度	
事業概要：		修復が完了した山車の公開組立を佐倉の秋祭りの準備日に行い、組立作業や曳き廻しの担い手の技能および人員の維持、技術の向上を図り、継続的に山車の引き廻しができる基盤を作る。					
評価指標区分：		・保存会会員数の変化（維持）				（具体的な指標は次のとおり）	
具体的な指標：		構成団体員（町会の祭礼委員会）の人数					
目標値：		【現状値】 平成 28 年度 250 人 ⇒ 【目標値】 平成 31 年度 300 人					
進捗状況：		各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成 29 年度		平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	
270 人		人	人	人	人	人	
40%							
事業⑤：		旧佐倉町の祭礼用具修理及び公開事業		実施団体：		佐倉山車人形保存会	
事業区分：		用具等整備		事業期間：		平成 29 年度 ～ 平成 33 年度	
事業概要：		経年劣化により今後の活用が困難な状況を改善し、将来にわたっての曳き廻しの継承を可能とするために、祭礼用具の修理を行うとともにその成果を公開する。作業経過等はSNS上でも公開する。					
評価指標区分：		・保存会への新規入会者数				（具体的な指標は次のとおり）	
具体的な指標：		構成団体および佐倉の秋祭り新規参加者数					
目標値：		【現状値】 平成 28 年度 250 人 ⇒ 【目標値】 平成 33 年度 350 人					
進捗状況：		各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成 29 年度		平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	
270 人		人	人	人	人	人	
20%							